

大阪市立古市小学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 全国体力・運動能力、運動習慣調査の全国平均値（実技）の平均値を 8 種目中 4 種目上回る。全学年春と秋にスポーツテストを実施し、課題のあるシャトルラン、50 メートル走、反復横跳びの個人の記録が向上した児童を 7 割以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <p>② 本校の健康習慣の取り組み等で、健康の保持増進への意欲向上を図り、健康な生活習慣の確立をめざす。健康週間でのふりかえりカードにおいて、「できた」等、肯定的に回答する児童を 7 割以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 体育的活動の充実】</p> <p>体力向上アクションプランのもと、体育の授業を実施する。瞬発力を高められるような運動を行い、同時に外遊びも促していく。</p> <p>春と秋にスポーツテストを実施する。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 春と秋のスポーツテストの記録を比較検討し、記録が向上した子が学校全体の 7 割以上になるようにめざす。</p>	
<p>取組内容②【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>基本的な生活習慣の育成の取り組みを通して、健康の保持増進の意欲を高め、行動に移す児童を増やす。家庭との連携、啓発も含めながら結果の向上をはかる。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 生活習慣の自己点検を月に 1 回実施し、よりよい健康習慣が身につく児童を増やす。</p>	

【視点 健康・体力の保持増進】 平成28年度 運営に関する計画 中間評価

名前 上垣 ゆかり

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 春のスポーツテストを実施し、秋のスポーツテストを実施中である。9月の50メートル走の記録だけの比較では、記録が伸びた児童7割には達しなかった。学年にはばらつきがあり、50メートル走以外の結果で達成状況が変わる。計測者による誤差もある。
- 毎月の健康週間での振り返りカードで「とてもがんばれた」「がんばれた」等の肯定的な回答をする児童は7割以上に達している。

【取り組み内容】

- ① みんな遊びをしている学級は多く、週に数回は昼休み等の外遊びはできている。毎日、毎時間外遊びができる児童はだいたい決まっている様子が見られ、高学年では室内で遊んでいる児童も多い。みんな遊びだけでなく、外遊びの工夫をしていく必要がある。

体育の授業でのアクションプランの実施については、準備に時間がかかることもあり、継続して行うことは難しかった。学年に応じて、5分ランニング・ストレッチ、二人組の運動、遊具を使ったサークル、ブリッジ、逆立ちの練習等、本時の体育学習につながる動きを準備体操に取り入れて取り組んできている。しかし、運動が積みあがっているとは言えないので、低学年、中学年、高学年での運動の目安を検討して積み上げていく必要がある。また、なわとびカードの活用等、休み時間も外に出て運動できる手立ても必要である。

スポーツテストの記録については、50メートル走1項目での比較では不十分なため、秋のスポーツテストの実施後、比較検討を行う。

- ② 健康週間を毎月行い、ふりかえりカードを記入することで自分自身のふり返りができる意識は高まっている。担任も児童の様子を知り、日々の指導に生かすことができている。また、保護者が記入する欄を設けることにより、保護者への啓発になり、児童の励みにもなっている。現在の集計で「とてもがんばれた」「がんばれた」等の肯定的な回答をする児童は9割を超えており、自己評価なので自分に甘い児童もいるので、チェックしながら指導は必要である。

今後への改善点

【目標設定】について

- ① ・外遊びがもっとできるように、みんな遊び等遊びの工夫を行い、健康週間振り返りカードの項目8「そと遊びをした」の集計を行い、どれくらい外遊びができるか指標に加える。
- ・体育の授業で、継続してアクションプランが行える工夫を行う。低・中・高での種目の選択を行い、運動の積み重ねができるようにする。また、なわとびカード等の活用も検討する。
- ② 今後も健康的な生活習慣がなかなか身につかない児童と保護者への働きかけを継続して行うことが必要である。

